平成２７年度全国学力・学習状況調査結果分析と改善方策（宇佐市）

平成２７年度全国学力・学習状況調査結果　平均正答率(%) 一覧

	小学校６年					中学校３年				
	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ	理科
宇佐市	76.7	73.5	82.5	51.3	66.4	75.9	65.2	62.2	38.6	53.5
大分県（公立）	71.5	66.7	76.7	44.6	62.8	75.9	65.6	63.0	39.4	52.9
全国（公立）	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

小学校　国語

１　調査結果の分析

小学校：国語Ａ

・全国値を 6.7P 上回っている。昨年度よりも全国値を大きく超え、授業改善の成果が見られる。（昨年度は＋1P）
・観点別では、「話す・聞く」「読む」「言語についての知識・理解」についてはおよそ 7P 上回ったが、「書く」については 1.3P 下回った。
・「説明文では具体的な事例を挙げて説明することが書き方の工夫になること」を問われる設問の正答率が全国値より 1.3P 下回った。

小学校：国語Ｂ

・全国値を 8.1P、また９問すべての設問において全国値を上回っている。
・「書くこと」＋8.6P、「読むこと」＋9.1P と良好な結果であった。

２　具体的な改善方策

（１）「単元を貫く言語活動」を設定した授業づくりの充実
〇付けたい力を明確にし、常に意識をさせながら言語活動を行う。
〇「具体的事例や引用のある文とない文を読み比べる」ことや「引用を行う際の目的をはっきりさせる」などより一層の改善が必要である。
（２）多様な図書資料、新聞等を活用する授業の推進
〇情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを書く活動をさらに充実させる。

小学校　算数

１　調査結果の分析

小学校：算数Ａ

・全国値を 7.3P 上回っている。基礎的な知識は確実に身についている。
・昨年度の結果よりも全国値を大きく上回り、授業改善の成果がみられる。
・領域別では、「図形」の設問において他の設問に比べ正答率が低い傾向にある。

小学校：算数Ｂ

・全国値を 6.3P 上回っている。特に「数量関係」の領域において全国値を 10.4P と大きく超えている。昨年度、課題として捉えていたことから考えると改善の成果がみられる。
・「平行四辺形」の性質を用いる設問の正答率が 26.7%と低い。算数 A と同様に「図形」領域に課題がある。

２　具体的な改善方策

（１）「図形」の学習においては、図形を観察し特徴を調べながら、その性質を自ら導き出す算数的活動を仕組むことで、確実な理解と活用できる力を付ける。
（２）導き出した図形の性質を使って作図を行う際、学習した図形の性質と作図の手順を十分関連づけ、なぜそのような作図になるのかその意味を理解できるような授業を充実させる。

小学校　理科

１　調査結果の分析

・教科総合では、全国値を 5.6P 上回っている。
・設問別では、２４問中４問で全国値を下回っている。
　「顕微鏡」「星座の観察」「電池のつなぎ方」等「実験・観察の技能」に課題がある。
・「水蒸気」の説明は県調査との類似問題であり、県調査でも正答率は低い。

２　具体的な改善方策

（１）理科における言語活動の充実を図る。（～という言葉を使って説明しようなど。）
（２）理科の事象が生活の中のどこでみられるか等生活と関連づけた学習を進め、理科的事象への理解や興味関心を高める。
（３）各種実験において、必ず各自が操作の出来る時間を作る。

中学校　国語

１　調査結果の分析

中学校：国語Ａ

・全国値を 0.1P 上回っている。
・領域別では、「読む」は 1.4P、「言語の知識理解」0.1P 全国値を上回っているが、「話す」聞く」「書く」領域においては全国値をやや下回っている。
・表現の工夫、話す工夫、書く工夫、質問の意図などを捉えることに課題がある。
・小学校で学習した漢字の書きや生活の中でよく見られるような漢字の読みができていない。

中学校：国語Ｂ

・全国値を 0.6P 下回っている。昨年度の結果より全国値との差が縮まっており、授業改善の成果が見られる。
・記述問題の正答率は 20～50%程度で、そのうちの２問は全国値よりも 3P 程度低くなっている。
・昨年度調査では B 問題での無回答率の高さが課題であったが、今年度調査では無回答率も減少している。

２　具体的な改善方策

（１）生徒の必要に迫るような課題や授業内容を設定する。
（２）連続テキストだけでなく、メモ書きや図表などの非連続テキストを用い、読みとる場面を設定し、その中で必ず自分の考えを明確に持ち記述するような授業を計画的に行う。
（３）漢字の読み書きに関しては、国語科のみでなく学校総体で指導する。
（４）学習する事項が、日常生活の中でどう使われているかを具体的な場面をとらえて見せていく「つながる学習」を行う。

中学校　数学

１　調査結果の分析

中学校：数学Ａ

・全国値を 2.2P 下回っている。特に「図形」「資料の活用」において課題がある。
・「解が分数になる連立方程式等式の変形」「証明（三角形の合同条件）」「ｘの変域に対するｙの変域」「サイコロを投げたときの確率」において正答率が特に低い。

中学校：数学Ｂ

・全国値を 3P 下回っている。昨年に比べるとすべての領域で全国値との差は縮まり、上昇傾向にはある。
・数学 A と同様に、「図形」領域に課題が見られる。
・「反比例の式と事象を関連づけて説明する」「平行四辺形に関する証明や説明」「与えられた式、表、図などから解決方法を見つける」等図形に関する説明、証明に課題がある。

２　具体的な改善方策

（１）長文問題の正答率が低く、無回答率も多くなっている。課題解決に向けて順序よく筋道立てて問題を整理する力が必要であり、そのためには「問われていることは何かをはっきりさせること」「解決のためには既習事項の何を使うかを明確にすること」が必要になる。このような問題解決学習を意識した授業を日常的に行うことが不可欠である。
（２）習熟度別指導や個に応じた指導をなお一層充実させる。

中学校　理科

１　調査結果の分析

・全国値を 0.5P 上回っている。前回調査（Ｈ２４）からも伸びが見られる。
・「地学的領域」（天気図、気圧）の設問において、全国値を超えている設問が多い。
・「化学的領域」や「実験・観察の技能」においては、やや全国値を下回っている。
・「決められた濃度の水溶液の作り方」「実験結果のグラフの分析」「課題に合った考察を記述する」等に課題が見られた。

２　具体的な改善方策

（１）生徒自らが、自然現象や科学的事象に疑問を持ち課題設定をして実験・観察に臨めるような授業を工夫する。
（２）疑問をもてる導入（自然・科学現象）提示→課題設定→予想→実験方法→結果→考察といった課題解決学習を展開する。
（３）実験結果をグラフや表に表わしたり、グラフからわかることを話し合ったりする活動を計画的に行い、多様な資料を読み取り、考察することのできる力を付ける。

平成２７年度　全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

１　調査結果の概要

児童質問紙

〇基本的生活習慣等に関する事項

・朝食を毎日食べる、就寝･起床時刻など規則正しい生活習慣が身についている。

・平日４時間以上テレビを視聴する児童が２０％いる。

・携帯電話・スマートフォンを約半数の児童が所持している。使用時間は「３０分より少ない」と答えた児童が多い。

・家庭学習の時間は全国値と同程度で、「全くしない」と答えた児童は平日 1.1%、休日 5.9%で全国や県よりも少ない。予習･復習の習慣がついてきている。

・読書時間は全国値と同程度であるが、図書館利用はやや少ない。

・新聞をよく読んでいる児童が 21.5%で全国値よりもやや低い。

〇学級、学校生活について

・「学級会」や「学級のみんなでやり遂げる」経験等、学級のまとまりを肯定的に感じている児童は全国や県よりも多い。

・「学校に行くのは楽しい」と答えている児童は全国や県に比べるとやや少ない。

〇規範意識等に関する項目

・「人の役に立つ人間になりたい」と答えている児童は９０％を超えており、その他の設問においても肯定的な回答が多い。

〇授業、学習について

・１時間の授業の目標・まとめ・振り返り、ノートへの記述などがよくされていたと答えている児童が多い。

・国語、算数に関する意識は肯定的な答えが多い。反面、理科に関しては、「理科が好き」「よくわかる」と答えている児童が全国や県に比べるとやや少ない。

生徒質問紙

〇基本的生活習慣等に関する事項

・朝食を毎日食べる、就寝･起床時刻など規則正しい生活習慣が身についている。

・テレビやゲームの時間が全国値より多い。また、１日３～４時間以上を携帯電話やスマートフォンの使用に費やしている生徒が２０％程度いる。

・家庭学習の時間はほぼ全国値と等しいが、県に比べるとやや少ない。また、１日の読書時間は他に比べると多い。

・新聞をよく読んでいる生徒は約２０％で全国値と同程度であるが、「全く読まない」という生徒の割合が全国や県に比べると多い。

〇学級、学校生活について

・「学級のみんなでやり遂げる」経験は全国や県に比べて少ない。

・「学校に行くのは楽しい」と答えている児童は全国や県に比べるとやや少ない。

〇規範意識等に関する項目

・規範意識は高く学校の規則をよく守っている生徒が多い。地域の行事にも積極的に参加している。

〇授業、学習について

・授業中の話し合いや発表の機会は全国や県に比べると少ない。

・１時間の授業の目標・まとめ・振り返り、ノートへの記述などがよくされていたと答えている生徒が多い。

・国語に関する意識は肯定的な答えが多い。反面、数学や理科に関しては、「好き」や「よくわかる」と答えた生徒が全国や県に比べるとやや少ない。

２　児童･生徒質問紙の調査結果をふまえて

◇個に応じた指導や問題解決的授業を行うことで分かる喜びを感じさせ、自己肯定感を高め、学びに向かう力を育成する。

◇家庭学習の効果的かつ主体的な取組み方法を指導･支援する。

◇総合的な学習の時間において、「ふるさと宇佐」に着目した学習課題を設定するなど児童生徒が意欲的に取組める探究的な学習を進める。

◇学校司書との連携を強化し、学校図書館の充実を図る。

◇「新聞閲覧コーナー」の設置等による学びの環境づくりをさらに充実させる。

◇「うさ教育･家庭･読書の日」推進大会などの取組を契機に、児童生徒の豊かな心の育成や家庭読書の気運を醸成する。

◇携帯電話・スマートフォンの使用改善に向けて、ＰＴＡとの連携をさらに進める。

平成２７年度　全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

１　調査結果の概要

小学校：学校質問紙

・学校目標や学力の課題など、全教職員で共有し取組に当たっている。
・ほとんどの学校で、校長が授業観察をほぼ毎日行っている。
・「教科指導」「学力向上」「学校運営」どの項目においても、全国値を超えている。特に「家庭学習」や「指導方法」が高いレベルとなっている。
・授業のめあて・ねらいを示す項目では、ほとんどの学校がよく行っている。
・言語活動を学校全体として取組んでいる。
・ICT を活用した授業の回数は全国や県に比べ少ない。

中学校：学校質問紙

・学校目標や学力の課題など、全教職員で共有し取組に当たっている。
・ほとんどの学校で、校長が授業観察をほぼ毎日行っている。
・個に応じた指導、学力向上に向けた取組、教職員の取組は全国値を超え、組織的に取組がなされている。
・授業の「めあて」「振り返り」は全ての学校で計画的に行われている。
・すべての学校で職場体験学習に取組んでいる。
・ICT や学校図書館を活用した授業の回数は全国や県に比べ少ない。

２　学校質問紙調査の結果をふまえて

◇校長のリーダーシップのもと、今後も組織として学力や生活の課題を共有し、取組に当たる。
◇１時間完結型の授業、板書の構造化が定着した。今後は、児童生徒同士の「交流の時間の確保と内容の充実」、「授業の質の向上」を図る。
◇学習規律について小学校からの確実な積み重ねが、中学校での学習意欲や生徒指導、粘り強さにつながることを意識して、小中の連携を一層深める。
◇活用を意識した授業、言語活動に重点を置いた指導の必要性を全職員で尚一層共通理解し実践する。
◇中学校においては、近隣校合同研修会や教科部会を充実させ、指導力の向上を図る。
◇小中ともに、ICT を活用した授業づくりを進める。
◇学校司書との連携を深めながら、学校図書館を活用した授業を推進する。